

猫由来メチシリン耐性コアグララーゼ陽性ブドウ球菌 (MRSP及びMRSA)

日本の病気の猫由来コアグララーゼ陽性ブドウ球菌は、*Staphylococcus pseudintermedius* (SP*)と*Staphylococcus aureus*(SA*)が分離されています。日和見感染症を起こし、皮膚や尿路の感染症の原因菌となります。

*メチシリン（感受性試験ではオキサシリンを用います）に耐性を示すものをMRSP又はMRSA、メチシリンに感受性を示すものをMSSP又はMSSAという。

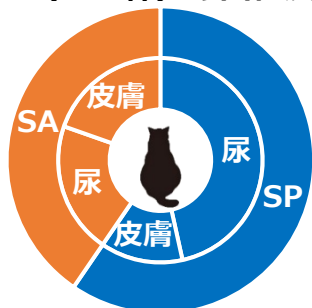
☑MRSP/MRSAは多剤耐性菌です。

- 有効な抗菌薬を選択・使用するためには感受性試験の実施が重要。
- 皮膚や耳では洗浄や消毒を選択肢に。
- 臨床症状がない細菌尿では、治療しないことを選択肢に。

☑院内感染対策も重要です。

- MRSAは人医療でも大きな問題。動物病院内で広げない対策が必要。

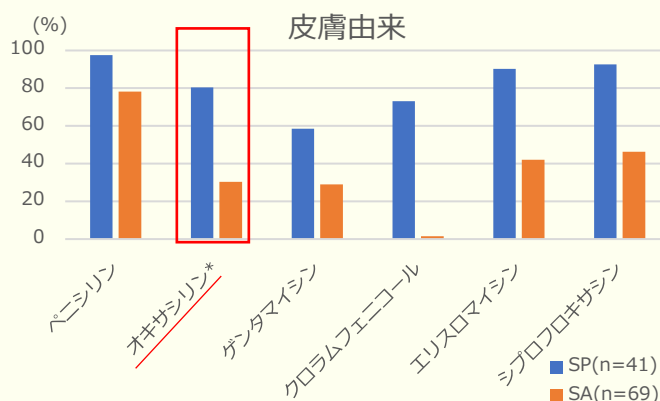
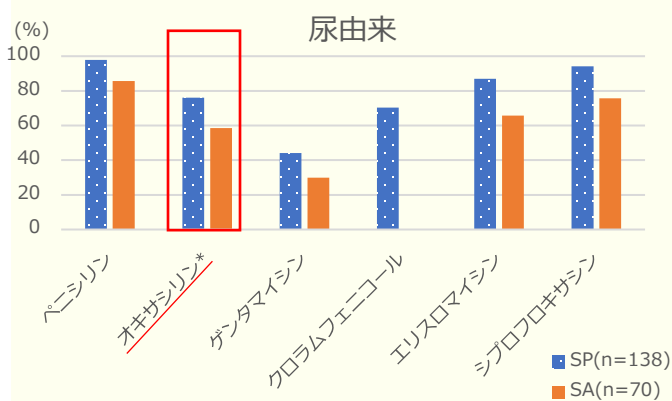
図1：2017年から2024年に病気の猫から分離されたSP及びSA（576株）の菌種及び分離部位の割合



日本の病気の猫由来コアグララーゼ陽性ブドウ球菌は、*Staphylococcus pseudintermedius* (SP)と*Staphylococcus aureus* (SA) がともに分離された。

図2：2021年から2024年に病気の猫から分離されたコアグララーゼ陽性ブドウ球菌の採材部位ごとの菌種別耐性率

* オキサシリン耐性 →MRSA,MRSPと判定



- SPはほとんどの薬剤で高い耐性率を示し、耐性が大きく異なる薬剤がある。
→ SPとSAはグラム染色でも区別がつかないため、感受性試験は重要。
- SPのうちMRSPは尿・皮膚ともに約8割を占め、SAのうちMRSAは尿由来で約6割、皮膚由来で約3割（オキサシリン耐性参照）。MRSP、MRSAは多くの薬剤に耐性。
→抗菌薬以外の治療の検討が必要。

愛玩動物の慎重
使用の手引きは
こちら →



抗菌薬一覧は
こちら (2023
年更新) →



○お問い合わせ○

動物医薬品検査所 動物分野AMRセンター
mail: nval_amr@maff.go.jp

